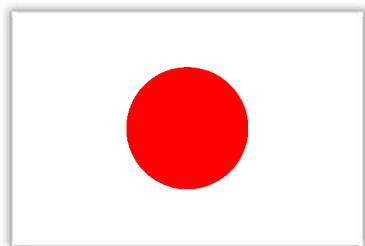


平成26年度
苫小牧市こども国際交流事業

中学生フィリピン派遣団



報告書



平成26年7月31日(木)～8月4日(月)

フィリピン共和国 マニラ

苫小牧市

目 次

派遣団名簿	1
事業概要	2
日程表	3
「こども国際交流事業を終えて」 団長 苫小牧市立苫小牧東中学校 校長 澤谷 佳典	4
「中学生フィリピン派遣団に参加して」 リーダー 苫小牧市立光洋中学校 遠山 ひとみ	5
旅行記	6
体験記	11
研究報告	15
旅の思い出（写真）	17



ナショナル・ユース・コミッションにて

中学生フィリピン派遣団名簿

引率者

	所属		氏名
団長	苫小牧東中学校	校長	澤谷 佳典
アドバイザー	苫小牧東中学校	教諭	小杉 聡司
事務局員	苫小牧市市民自治推進課	主査	吉田 竹志

団員

	学 校	学年	氏名
リーダー	光洋中学校	3年	遠山 ひとみ
	沼ノ端中学校	3年	上野 さくら
	登別明日中等教育学校	3年	駒澤 樹
	緑陵中学校	3年	杉本 成美
	緑陵中学校	3年	高崎 瑛菜
	凌雲中学校	3年	辨野 千尋
	苫小牧東中学校	2年	大竹 航樹
	緑陵中学校	2年	吉岡 美月
	和光中学校	1年	及川 怜音
	啓北中学校	1年	山崎 瑛登



7月22日出発式

事業概要

●目的

市内の学生を海外に派遣し、子供たちとの交流や文化や習慣に直接触れることで、国際的な視野を持つ人材の育成や友好関係を構築する。

●訪問国（都市）

フィリピン共和国（マニラ）

●協力

独立行政法人国際協力機構（JICA）

●事業工程

月 日	曜日	時 間	内 容	備 考
5月20日	火	17:30 ~20:00	選考面接 (作文・面接による選考)	
6月 3日	火	18:00 ~19:30	結団式・第1回事前研修 (説明会)	
6月10日	火	18:00 ~20:00	第2回事前研修 (フィリピン講座)	フィリピン人 講師
6月17日	火	18:00 ~20:00	第3回事前研修 (発展途上国の研修・リーダー決定)	ドキュメンタ リー映画鑑賞
6月24日	火	18:00 ~20:00	第4回事前研修 (交流先の説明・グループ分け)	
7月 1日	火	18:00 ~20:00	第5回事前研修 (フィリピン講座)	フィリピン人 講師
7月 8日	火	17:00 ~20:00	第6回事前研修 (現地での交流内容を決定・名刺作り)	
7月15日	火	17:00 ~20:00	第7回事前研修 (現地での交流の練習)	
7月22日	火	17:00 ~20:00	出発式・第8回事前研修 (市長表敬・現地での交流の練習)	
7月29日	火	17:00 ~20:00	第9回事前研修 (現地での交流の練習)	
7月31日 ~4日			フィリピン訪問	
8月 7日	月	13:00 ~18:00	帰国報告会準備①	①②のほか、 期間中グルー プごとに数回 準備
8月26日	火	18:00 ~20:00	帰国報告会準備②	
9月 1日	火	18:00 ~20:00	帰国報告会	

日 程 表

4泊5日【宿泊：ベルジャヤ マカティ ホテル】

	月 日	曜日	時 間	場 所	内 容	移 動	食 事
1	7月31日	木	11:30	市役所	市役所発 12:00 新千歳空港着 13:00	専用バス	昼：各自 夜：機内食
			14:00	新千歳空港	新千歳空港発 14:00 成田空港着 15:40	航空機	
			17:20	成田空港	成田空港発 17:20 マニラ空港着 20:55	航空機	
			22:30	マニラ	ホテル到着	専用バス	
2	8月1日	金	8:00	ホテル	ケソン市へ	専用バス	朝：ホテル 昼：多国籍 バイキング 夜：しゃぶしゃぶ
			9:30	ケソン	セント・フランシス聾学校		
			14:00	マニラ	Araullo High School(公立中学校)		
			16:00	マカティ	JICA フィリピン事務所訪問・研修		
3	8月2日	土	8:00	ホテル	来苦経験のある若者と合流	専用バス	朝：ホテル 昼：チキン料理 夜：ハンバーガー
			午前	マカティ	来苦経験のある若者との交流 ・ナショナルユースコミッション(NYC)		
			午後	マニラ	大学生とグループで市内を散策 ・マーケットマーケット		
4	8月3日	日	午前	ラスピニヤス タガイタイ	ラスピニヤス・タガイタイ観光 ・ラスピニヤス教会(ハンブーオルガン) ・ジプニー工場 ・タール湖(ヒープルス・パーク・イン・ザ・スカイ)	専用バス ジプニー	朝：ホテル 昼：フィリピン料理 夜：スペイン料理
			午後	マニラ	スモーキーマウンテン視察 マニラ(イントラムロス)観光 ・サン・アグスティン教会 ・モール・オブ・アジア ・カーサマニラ		
5	8月4日	月	7:00	ホテル	マニラ空港へ	専用バス	朝：ホテル 昼：機内食 夜：自宅
			7:00	マニラ空港	マニラ空港発 9:30 成田空港着 15:00	航空機	
			18:50	成田空港	成田空港発 18:50 新千歳空港着 20:35	航空機	
			21:30	市役所	解散	専用バス	

こども国際交流事業を終えて

今年の本事業では、昨年度から新たな訪問地として設定されているフィリピンへの派遣となりました。苫小牧市内の中学生10名と我々引率3名での訪問は、新たな発見と驚きの連続で、大変楽しく、また大きな収穫のあった4泊5日の充実の旅となりました。

フィリピンでは雨期にあたる8月でしたが、何度かの突然の雨に驚くことはあったものの幸いにも殆どの行程で天候に恵まれ、学校訪問や買い物、大学生との交流、観光を存分に楽しみ、フィリピンを体感し多くの人との交流で熱い友好を深めてきました。

訪問はフィリピンの首都マニラと隣のケソン市を中心に行われました。マニラの人口は170万人、近郊の市を包括したメトロマニラは1600万人の大型都市群です。国際空港周辺をはじめとしてメトロマニラのあちこちで再開発が行われている様子があり、経済の発展途上の勢いを感じさせます。しかし、一方でスモークマウンテンに代表される貧しい生活を強いられる人々の様子もあちこちにあり、訪問団の生徒は日本の国の豊かさと今の自分の生活環境とのあまりのギャップに衝撃を受けたようです。

今回の訪問では、マニラの同年代の生徒との交流と大学生との交流が組み込まれていました。ケソン市内のセント・フランシス聾学校では歓迎の歌を披露してくれましたし、親善の意味を込めて手作りの作品をいただきました。お返しに準備してきた折り紙を教えて交流しましたが、耳の不自由さや言葉の壁を感じさせない明るさやその表情に、とても親近感を覚えたようです。この学校訪問にあたっては、参加した学生が事前に自分達は何ができるかを考え、それぞれが所属する学校で生徒に呼びかけ、集まった未使用のノートや鉛筆などの文房具を大きな段ボールに分けて日本から持参し、この聾学校に寄贈しました。文房具の入った箱を開いて披露すると大きな歓声上がり、携わった訪問団の学生にとっても大変嬉しいひとときとなりました。

もうひとつマニラ市内のアラウロ高校（日本では中学校）では歌と演奏、バンブーダンスでの大歓迎のあと教室に入って授業の見学、その後、グループに入っでの交流ではフィリピンの中学生からの質問に片言の英語と身振り手振りで何とか対応していました。こうした環境に1ヶ月もいればきっと英語の会話能力が一気に上がること間違いなしと感じた時間でした。

英語のみが通じる時間がもうひとつ、ナショナルユースコミッションでの大学生との交流、その後の半日は買い物、食事、ほぼすべてがマンツーマンの対応で英語環境に付きながら、フィリピンを満喫しました。大学生の皆さんには大変配慮いただきました。今回お会いした大学生の皆さんは、大変優秀で、きっとフィリピンの将来を最前線で担うであろうことが容易に想像できます。心から感謝したいと思います。

最も印象に残ったことのひとつは、スモークマウンテン(ゴミの山)の様子でした。富裕層しか行くことのない野球場8個分の巨大なマーケットや大型ビルやショッピングセンターが建ち並び、ゴミを仕分けし、そこから生活のためのわずかな収入を得る子どもたち、上半身裸にサンダル、ゴミの周りに建つ粗末な小屋に生活する環境に日本の子どもたちの恵まれた環境との落差、満面の笑顔で人なつこく我々のバスに手を振り続ける子どもたち、満足とは何か、幸せとは何かを考えさせられる場面でありました。

今回の派遣は、子どもたちにとって大変貴重な体験となりました。この体験が将来にわたって子どもたちの心に残り、国際感覚豊かな人間に育ててくれることを心より期待しています。

この事業の実施にあたり、苫小牧市市民自治推進課をはじめ関係者の皆様には、多大なご尽力・ご協力をいただきましたことに改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

平成26年8月

団長
苫小牧市立苫小牧東中学校
校長 澤谷 佳典

私達フィリピン派遣団10名は7月31日、わくわくする気持ちと少しの不安を抱えながらマニラへと出発しました。マニラへ到着すると、ココナッツの甘い香り、からだに触れる温度、見るもの全てに感動して心奪われました。

次の日からは、いよいよ研修が始まり、私達はフィリピンの多彩な文化や伝統がみえる街並み、美しい自然、一つ一つに感動しました。研修をしていく中では、日本との違いや初めてのことに驚き、毎日が刺激的でとても充実していました。

その研修の中でも一番心に残り、感動した事は“フィリピンの人の温かさ”です。私達がバスから外を眺めているだけでも、目が合うと大人から子供までたくさんの人が温かい笑顔で手を振ってくれました。私達は、その笑顔のおかげで不安だった気持ちも次第に消えていきました。

交流した若者や学生達、ろう学校の子供達からは大歓迎を受け、心から感動し、私は泣きそうになっていました。フィリピンの人達の笑顔を見ていると、自分達まで明るく元気な気持ちになり、その笑顔には言葉の壁や人種の違いは全く関係ありませんでした。私は笑顔の素晴らしさを改めて実感すると共に、自分も笑顔で人を元気にできるようなそんな人間になりたいと心から思いました。これらはフィリピンの人達の素直さや明るい笑顔などを私も、日々忘れないよう過ごしていきたいです。

一方、胸を痛めたこともありました。それは、スモーキーマウンテンというフィリピンのスラム街です。私は、事前研修でスモーキーマウンテンの事や、フィリピンの貧困、経済格差について学んでいました。ですが、実際にそれを目の前にした時には、何も言葉が出ませんでした。道路には、廃材や布などで作った家が建ち並び、家の前にはゴミの山の中から、お金になるものを探している人達。その日暮らしの生活を毎日続けている彼らの事を考えると、鳥肌が立ち、胸が痛くなりました。しかし、驚いたことに、子供達は皆笑顔で手を振ってくれたり、楽しそうに遊んでいました。私だったら、笑顔で過ごせていないかもしれないとも思いました。しかし彼らは、この生活に不満を持ったりはしていない。家族が元気であれば Very Happy と考えているそうです。私はそれを聞いて、そんな彼らを尊敬します。自分達の生活がどれほど豊かで恵まれているのかと考えさせられると共に、今の生活に感謝しようと思いました。

私はまだ中学生なので、彼らを支援したりすることは難しいかもしれませんが、ですが、彼らの事を忘れないこと。そして人に伝えていくという事をしていき、少しでも彼らのために動けたらいいなと思います。

フィリピンで私達は、日本では学ぶことの出来ない多くを学び、一人一人が成長する事が出来たと思います。私がフィリピンに行く前に目標としていた、

- ・多くの人とコミュニケーションをとる
- ・友情を築く

というのも、達成する事が出来たと思います。今回フィリピンに行く事が出来たのは、私の人生の中でとても貴重な体験であり、宝物となりました。私達に、こんなにも素敵な体験をさせてくれて、サポートしてくれた人達には感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、この経験を活かして一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

旅行記

第1日目 7月31日(木)

山崎 瑛登

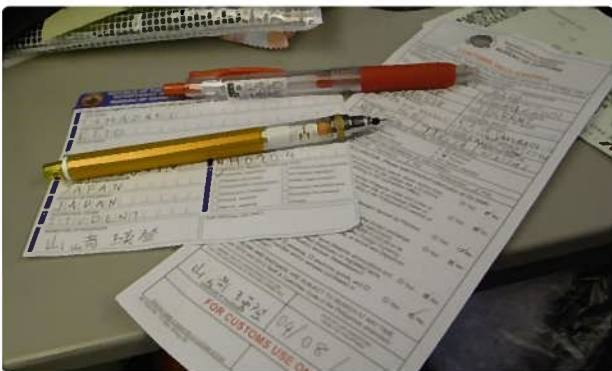
7月31日、出発の日。市役所に11時30分集合だった。皆が集まり、リーダーの遠山さんが出発のあいさつをした。みんなの家族や、市役所の方々に見送られ出発した。

僕にとって、初めての海外旅行だったのでとてもワクワクしていた。

新千歳空港について、さっそく荷物を預けると40分くらいの自由時間があつた。僕と、大竹君で展望デッキへ行く事にした。すこし迷ってしまったので、あつという間に自由時間を使い果たしてしまった。フィリピンのマニラ国際空港まで行くには、一度、成田空港で乗り継ぎがなければならなかつた。

新千歳空港から成田空港までは、約1時間半くらいだったと思う。落語を聞いているとすぐに着陸体勢に入った。あつという間に成田空港に着いた。出国審査を無事に終えて、マニラ行きの飛行機にのつた。

数日前から日本とフィリピンの間に、台風が2つも発生していて、マニラ行きの飛行機が飛ばかどうか不安だったが無事飛び立つ事ができてよかつた。飛行機の中では、入国審査のカードを書かなければならなかつたので、思っていたよりいそがしかつた。入国審査のカードは全て、英語で書かれていた。映画を見ていると、機内食の案内をされた。僕は、マーボー豆腐ご飯にした。



映画を観終わり、ゲームをしていると着陸体勢に入り、マニラ国際空港に着いた。

そして、飛行機から降りて、空港のトイレに

入ると、もう全てが英語で書かれていた。もうここは、外国だと実感した。

僕ら15才以下の人達は控室で数十分待たされた。

入国審査も、無事に終えた。そのころは、もう、日本時間の11時をまわっていた。荷物をうけとり、さっそく空港を出た。

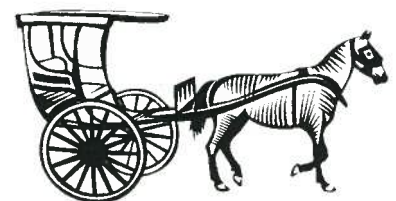
初めての海外、フィリピン、どんな所だろうと思いながら、空港の外へ出ると、夜なのにも関わらず、じめじめとした、まとわりつくような暑さだった。バスの中へ入ると、寒いくらい、冷ぼうが効いていた。バスガイドさんは、中村さんという人だった。

マニラ国際空港から、ホテルまでは、30分くらいの道のりだった。バスの中で両替をしたり、明日の確認をした。

フィリピンの街並は僕の想像とは違い、夜おそいのにとても多くの人々が外を歩いていて、びっくりした。

ホテルに着いて、全員で写真をとつた。その後、部屋に入った。その時には、もう12時だった。シャワーをあびて荷物の整理をしていると、もう1時だったので寝た。

明日からの活動を頑張ろうと思う。



第2日目 8月1日(金)

及川 怜音

フィリピン研修二日目。昨日ホテルに着いたのも遅く、起床も遅かった。ホテルで朝食をとり、すぐバスでセント・フランシスコ聾学校に向かう。バスの中では窓から見える、日本にはない景色や乗り物を休む間もなくカメラに収めた。移動中は周りのトラックの運転手や、バスの乗客が手をふってくれ、日本よりもフレンドリーな人が多いなと感じた。

聾学校に到着し、生徒が笑顔で迎えてくれた。中に入ると歓迎のメッセージが書かれていてそれを見ると緊張がほぐれた。私達派遣団の紹介をし、学校でも協力してもらった文房具を持っていくと、とても喜んでくれて、とてもうれしかった。

その後、生徒が歌とダンスを披露してくれ途中で私達も一緒に踊ったあと、各教室に移動して折り紙を教えた。自分はほとんど英語が喋れないため、上手く伝えられない事も多かったが、楽しそうに折り紙をしていたので、すごく嬉しかった。



聾学校を後にし、次にマニラ市内にある、Araullo High school(アラウロ高校)を訪れた。ここは六千人ほどの生徒が通う、市内で一番大きな学校だ。生徒が日本語であいさつしてくれ、中に入るとフィリピンと日本の国歌、楽器やダンスで出迎えてくれた。そのあと、授業見学に行くと、ここでも日本語であいさつをしてくれた。そして三つのグループに分かれて交流をした。フィリピンで流行しているダンスを教えてもらったり、自己紹介や写真を撮ったりした。

だが一番難しかったのは、質問されて答えることだった。何と言われているのか分からず、話が通じない部分もあったが良い経験になった。

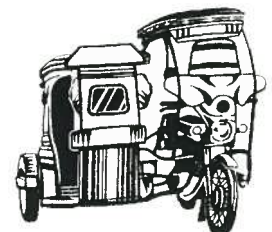


次に JICA フィリピン事務所に行った。ここでは日本とフィリピンのつながりや、日本がフィリピンにどのような支援をしているかなどをくわしく教えてもらった。説明は日本人がしてくれたので、日本語ですごく分かりやすかった。

最後に夕食を食べに行った。焼き肉としゃぶしゃぶを食べた。どの料理も美味しかったがアイスは母に止められていたため食べられなかった。まさか人生初のしゃぶしゃぶをフィリピンで食べるなど、考えてもいなかったのですごく思い出に残る食事だった。

バスに乗り込み、ホテルに帰る途中、横断歩道の信号に目をやると、青の時は歩いているようにライトが点滅していたり、信号機の横に秒数が表示されていた。日本にはない、おもしろい信号がフィリピンにあるのだなと思った。

ホテルの部屋につくと、一気に疲れが増してきた。英語ができないと言葉が通じにくいため、もっと英語の勉強をしようと思つて改めた。今日一日ですごくたくさんの経験ができた。残りあと3日しかないが、日本で経験できない貴重な時間を無駄にせず、今日以上に楽しんでから帰国したい。



第3日目 8月2日(土)

杉本 成美

私たちは、3日目に苦小牧へ来たことのある大学生と交流しました。

まず最初に、私たちは、朝ホテルに来てくれた大学生たちとペアになり、バスに乗りました。英語でのコミュニケーションばかりで、とても緊張して、大変だったけど、優しい大学生と一緒に交流するうちにだんだんと緊張がとれてきました。

次に、大学生と一緒にお互いの文化を紹介して交流しました。私たちが大学生へ向けて日本の歌やよさこいを披露しました。

日本の歌は、さくら、ふるさと、そして紅葉でした。さくらは、せんすを持って踊りました。この日本の歌は、辨野さんの琴の演奏に合わせて歌ったので、日本らしさがよく伝えることができたと思います。

次に私たちは、よさこいを踊りました。大学生は初めて見るかもしれないよさこいに、とても驚いていました。その後、大学生も一緒に、よさこいを踊りました。教えるのは難しかったけれど、日本の踊りを一緒にできて嬉しかったです。



最後に日本の遊び、大根抜きをしました。

大根抜きは思っていたよりずっと大学生の方が楽しんでいました。



次に、またバスに乗って、ショッピングモールに行きました。ここでは、大学生に買い方を教えてもらいながら、一緒に買い物をしました。フィリピンのお店は日本と同じようなもので、割と買い物しやすかったと思います。



夕食には、フィリピンで有名なジョリビーというハンバーガーショップに行って食べました。フィリピンのハンバーガーは日本より少しだけ甘い感じでしたが、おいしかったです。

そして最後に、またバスで大学生と一緒にホテルへ移動しました。ホテルでは、大学生とお別れで、おみやげなどをもらいました。大学生たちは、私たちに向けてメッセージなどをくれました。



3日目は、大学生との交流でしたが、英語のコミュニケーション能力が試されたなと感じました。



第4日目 8月3日(日)

高崎 瑛菜

8月3日は、観光の日だった。フィリピンに来て4日が経ち、みんなフィリピンに慣れてきた。しかし、やっぱりバスの中は、寒かった。

最初にラスピニャス教会へ行った。ラスピニャス教会は、世界で唯一の竹で作られたパイプオルガンであるバンブーオルガンがあることでも知られている教会だ。毎週日曜日のミサには、バンブーオルガンを演奏しているそうで、ちょうど私たちが行ったのも日曜日だったので演奏しているところを観ることができた。とてもキレイな音色だった。他に天井なども竹で造られていて、とてもキレイだった。

次にジブニー工場へ行った。ジブニーと日本というバスのようなものだ。工場に着くとジブニーのプラモデルを売っている人に追いかけてびっくりした。工場には、まだ色の塗られていない車両があり、乗ることもできた。



次にタガイタイのピープルズパークインザスカイという所に行った。山を登る時に、初めて動いているジブニーに乗ることができて、とてもうれしかった。山を下る途中のフィリピン料理のお店でお昼を食べた。私の中では、フィリピンで食べた料理の中で一番美味しかった。ですがジュースのストローが紙でできていたため、最後のほうになるとふにゃふにゃになってしまい、飲むことができなくなった。

昼食の後、タガイタイで夜のフルーツパーティーで食べる果物を買った。色々なフルーツが並べられていて、どれも美味しそうだった。

午後は、最初にスモークマウンテンに行っ

た。ここは、ゴミなどを集めて生活をしている人たちが住んでいる所で、普通の街のすごく近くだった。バスの中から見るだけだったが、そこにいた子どもたちは、みんな笑顔だったので私はびっくりした。周りを見るとゴミばかりなのに、みんなとても明るく元気だったからだ。

次にサンアグスチン教会へ行った。この教会は世界遺産にも登録されている教会だ。中は、すごく広く中庭もありとてもキレイだった。



その後は、スペイン料理のお店で夕食を食べた。歌や踊りを見ながら食べることもできた。踊りはとてもキレイだった。

ホテルに戻ると事務局の吉田さんの部屋に集まりフルーツパーティーをした。マンゴスチンなど日本では食べれない果物をたくさん食べることもできた。その中で、小さくクリーム色の美味しい果物の名前がわからず、みんなで「吉田さん」と呼ぶことにした。食べながら、調べてみるとランソネスという名前だったが、結局そのまま「吉田さん」と呼んでいた。



フィリピン最終日にすごくいい思い出がたくさんできた。とても楽しかった。

最終日 8月4日(月)

吉岡 美月

いよいよ、研修の最終日を迎えた。朝はモーニングコールが5時といつもより早く、起きるのが大変だった。「今日でフィリピンとお別れかぁ。さびしいな。」「5日間あっという間だったな。」色々な事を考えながら、朝食を済ませて、荷物をまとめて空港に向かった。空港までのバスでは5日間、旅のサポートをしてくださったガイドの中村さんに団員一同から感謝の言葉を書いたものを渡した。私たちがこうして、安全に楽しくフィリピンについて学ぶことが出来たのは、中村さんのおかげだと思う。本当にありがとうございました。

空港に着き、中村さんとお別れして、出国の手続きを済ませた。出発の時間が近づくと、フィリピンで出会った人たちの顔が頭に浮かんだ。教えてもらったフィリピンの文化や伝統などを帰国後もたくさんの人に広めたいと思いながらフィリピンを旅立った。

日本への飛行機では、長い旅の疲れのせいか眠ってしまい、成田空港までの4時間は、あっという間だった。



空港に着くと日本人がたくさんいて、帰ってきたんだと思い、少しホッとした。次の飛行機まで、時間があるということだったので自由時間になった。お腹もすいていたし、久しぶりに日本食を食べたかったので、うどん屋さんに入った。フィリピン料理は、少し口に合わない物もあって、満腹になるまでご飯を食べられなかった。けれど、フィリピンのスラム街で見た子供達はそれがあたり前だと思うと、私たち日本

人は本当に幸せなんだなと思い、うどんも大切に食べた。腕時計を見ると、まだ時間があったのでゆっくりしていたが、時計がフィリピンの時間のままで、1時間遅れていたことがわかり、急いで集合場所に向かった。大きな空港の中で道に迷そうにもなったが、なんとか時間までに集合場所に行けたのでよかった。

その後は、飛行機に乗り新千歳空港に着いたのは夜の9時頃だった。そこからバスで苫小牧に向かった。バスの中では5日間、お世話になった添乗員の西本さんに感謝の気持ちを書いた寄せ書きを渡した。5日間、本当にお世話になりました。だんだん見慣れた苫小牧の町並みが見えてきて市役所に着くと家族が迎えに来ていてくれたのでうれしかった。最後に団員全員で家族に「ただいま。」と言って長い研修は終わった。

私たちはこの5日間でたくさんのことを学び、感じた。現地の人たちとの交流や、スラム街の悲惨さを目にした時の衝撃。そして、日本に生まれてこれた事はとても幸せという事を再確認できた。本当にこのような素晴らしい経験をさせていただいた市役所の方々、家族、引率の澤谷校長先生、小杉先生、吉田さん、添乗員の西本さん。事前研修でお世話になった榎田さん、加賀谷さん、フィリピン講師のルディ先生。そして、現地で関わってきたすべての皆さん、本当にありがとうございました。この経験を忘れずに、これからの国際交流に生かしていきたいです。



フィリピンの伝統・自然・歴史

辨野 千尋

NYCで大学生と交流をした。
ハイナッポールで作った伝統的な
衣装を着て、ロウソクを使った
ダンスを披露してくれた。
とてもキレイで、その後カシの実の



皮で作った音から
ある遊び"道具"で、
竹馬のようなゲームをした。
2チームに分かれて競争し、床が
滑って転びそうになりながらも
頑張ってた。



タガイトイでは、世界一小さいカルデラを見た。



※カルデラとは…※
火山活動によってできた
ここの凹地。

カルデラのあるタール湖はタール山山頂の展望台
から望むことができ、山頂には教会もある。



サン・アグスティン教会は
危険遺産(世界遺産だけど
保存や管理が難しい)に
指定されている。

でも中に入ってみると、どこを見てもとてもキレイで
これだけ立派だから後世までずっと残っていて
ほしいと思った。



シャンテリアー
うう500万円!!



この教会は1600年頃に
建てられ、壁や天井はサンゴ石灰でできている。完成
には約百年を要し、天井は浮き彫りのように見える
だまし絵になっていた。スペイン統治時代に建て



られたので、中庭などの
スペイン式の建築様式が
見られる。

ラスピニャス教会では、
16世紀に作られ現在も
当時のそのままの状態で
現存しているという竹でできたパイプオルガンを見た。



教会に行った日はちょうど
日曜日だったため、
たくさんの方が礼拝をしに
来ていた。



・リサル・パーク



フィリピンの独立に尽力した英雄ホセ・リサールの
記念像があり、像の下にはリサルが埋葬されている。
像の周辺では常に警備員が見張りをしている。

・マニラ大聖堂



1571年に建築された大きな
教会。第二次世界大戦で壊されて
しまったため、現存する教会は
1958年に建てられた。

スモークーマウンテンを訪れて

駒澤 樹

今回、私の心に深く刻まれたのは、周りの国や地域、つまり世界から見たスモークーマウンテンの存在だった。



スモークーマウンテンは、大して問題視されていなかったのだ。そこに暮らす人々は、皆笑っていた。しかし、その笑顔は真の幸せから来るものだろうか。今までもずっとそうして生活してきた、それで生計が成り立っているのだから良いのではないか。

どことなく、そんな風潮が感じられた。とても、心が痛んだ。



今、世界には、スモークーマウンテン以外にも、難民や身分による差別など様々な人権問題があり、いずれも、ずいぶん昔から叫ばれてきたものだ。

しかし、今だに大きな改善は見られない。なぜか。それは、世界全体で問題を解決しようとはしていないからだ。

ユニセフや JICA など、改善に向けて働いている機関は確かにある。

しかし、今ある問題の改善は、一部の人が働いた所で間に合わない。

我々のような先進国と
呼ばれる国々こそ、
国をあげて発展途上国を
支援すべきである。



フィリピンの町中に、当たり前のように存在するスモークーマウンテン。

その姿はまるで、教訓のようにさえ見えた。“こうならないように”などと言うかのように、また、悪い例としてあえて残されているかのように存在していた。

それは、今の世界がそのような教訓となるものを必要としていることを表している。しかし、そのスモークーマウンテンはこのままでよいのか。

スモークーマウンテンに暮らす人々の生活は、どうなるのか。



私は今回フィリピンに行って、実際に現場を見ることで、世界を見る広い視野が持てた

ように思う。私は今期から、“スーパーグローバルハイスクール”に認定された我が校の

生徒会役員として活動する。

実際に発展途上国に行った経験も活かしながら、学校全体でこれからの世界について考えていきたいと思う。

スモークーマウンテンで笑っていた子供達の笑顔が、心からの笑顔になることを、私は心の底から強く願う。

世界中の人々が、
毎日心から笑って
過ごせる日が、必ず来ますように。



フィリピンの学生たちとの思い出

上野 さくら

セントフランシスろう学校では、自分より小さい子達と交流をしました！
この学校の子達は歓迎で歌と踊りをしてくれました！

途中から生徒さんに連れられて、一緒に歌ったり、踊ったりしました★

日本からは折り紙を教え、子供達は言っていることを理解して、一緒に折り紙をしてくれました！

幼稚園の先生になった気分でした！

けど、これは助けがあったからできたので、
本当の先生は大変な人だろうなと思います

とてもほほえましい時間でした！

楽しかったです♡



中学校では、歓迎でフィリピンの国歌と日本の国歌を歌ってくれた！他にもダンスを踊ってくれて、
教えてもらったりもした。授業の見学だったのに
マイケル先生は交流の時間にしてくれた！
グループではフィリピンの人達の英語を聞きとり、
短く返すので精一杯だった。

また勢いもすごくてやはり受け身側にまわってしまった…

しかし、話をしたり、写真をとったりしてとても楽しく過ごせた！

またせんすをあげた時はサインを書いてくれと言われ、たくさん
書いて有名人気分だった★

一部の女子からは自分の名前をリボンに書いて、私にくれた。

学校の人達のほとんどが手を振ってくれた。うれしいことがいっぱいだった！



私のペアの大学生は ジェミーさんという女性でした。

ジェミーはとてもきれいで優しい人でした。★

英語でも私にあかると言説明してくれて、フィリピン語やおすすめのお土産も
教えてもらいました！困っている時も隣にいて、たくさん助けてもらいました。

応援やほげましの声をかけてもらったり、話をしている時も笑顔が

絶えませんでした！！とても楽しい会話をたくさんしました！

とても良い貴重な体験でした。

とても充実して楽しかったです♡また会いたい！



フィリピンの学生と交流して

大竹 航樹



まず、聾学校に行きました。聾学校の子どもたちは耳の聞こえが不自由なはずなのに、崖の上のポニョの上手なダンスで僕たちを歓迎してくれました。とても嬉しかったです。そのあと、日本から折り紙の折り方を教えました。聾学校の生徒たちは、すぐ折れるようになったので、びっくりしました。最初は、けっこう緊張していたけれども、最後は、仲良く交流ができてよかったです。



次に、高校に行きました。着いたとたんにとくさんの学生が笑顔で出迎えてくれました。想像していたよりも人が多かったのでびっくりしました。学生たちは、バンブーダンスという2本の竹を使ったとても上手なダンスを踊ってくれました。そのあと、学生との交流をしました。最初は緊張してあまり話せませんでしたけどだんだん話せるようになり、盛り上がってくれてよかったです。1時間くらい話していたのでだいぶ英語力がつきました。とても楽しく充実した時間が過ごせてよかったです。



その次に若者と交流をしました。バスの中で最初は話せるかどうか心配でしたが、パートナーのフランクが積極的に話してくれたので、すぐに打ちとけることができました。けっこう会話が弾んだのでよかったです。



そして、そのあとNYC(ナショナルユースコミッション)に行きました。そこで、キャンドルの火を使って踊ってくれました。そして、そのあと一緒に踊りました。思ったよりも簡単にできてよかったです。そのあと、よさこいや琴を若者に見せてあげました。とても喜んでくれたのでよかったです。

そのあと、ショッピングモールを回りました。何がおいしくて、何がおいしくないのかわからないときでも、フランクがおすすめのものを教えてくれたので、とてもはやく回る事ができました。夕食も「Jollibee」というフィリピンで人気のハンバーガー屋で食べました。そして、瑛登とパートナーがピーチマンゴーパイを



おごってくれて食べたらずっともカッとしていて、そして、フランクと別れる時に、僕へ手紙をくれました。それをもらったとき、読んで和訳したら「素晴らしい体験をありがとう」と書いていて

とても嬉しかったです。今回の交流で英語力は身に付きました。しかし、それ以上に会話の楽しさがわかり、よかったです。



研究報告 第Aグループ

及川怜音・大竹航樹
杉本成美・高崎瑛菜・辨野千尋

発表テーマ フィリピンの人々と生活



セント・フランシス聾学校

～ ダンスと子供達の様子 ～ グループの交流



現地のダンスと
ポニーの踊りをおぼった。
子供たちは耳が聴こえ
ないのに、身ぶり手振り
で表現していてすごかった。

折り紙や日本の遊びを通して交流
折り紙 覚えが早くて思ったより
スムーズに進めれた。一緒にこま
を作って交流した。

日本の遊び 時間がなくてできない
人もいた。日本の遊びに興味を
持ってくれた。

※ 聾学校の説明
耳が聴こえない子供達が中学校3年生まで
通っている学校。補聴器を付けた生徒もいる。



Aグループ 交流

杉本成美
辨野千尋

Araculo High school

アラウロ
高校

①アラウロ高校...公立の中学・高校。12~16歳の生徒が約4800人在籍。
マニラ市内で一番歴史のある高校!

歓迎会 フィリピン国歌と
日本国歌の合唱

授業見学 社会の授業中...

生徒との交流 たくさん話しかけてくれました

実際にバンア
タンスを体験

この間にたくさんの
写真と動画を撮影して
思い出を作りました

おやつ

フィリピンには日本にもある3時の
おやつほかに10時にもおやつ
の時間があった。

交通手段

ツプニー
バス停がなく
自由に乗り降り
できる。

トライシクル
タクシーと同じ。

昼食 夕食

2日目は多国籍料理の
バイキングでした。

3日目はMax's
で鳥の料理を
食べました。

4日目は
マフィリピン料理
を食べました。

2日目は、4日目は、スペイン
しゃぶしゃぶ料理を食べました。
夜は吉田さんの
部屋でフルーツ
パーティーをしました。

3日目は
ジョリビーで
好きなお菓子を注文して
食べました。

Aグループ 生活と言葉

ホテル

エレベーターには
13階がなかった。

モーニングコールは
時間どおり鳴らずに
20分くらい遅れて鳴った。

フィリピンの水は
飲むとお腹をこわす

バットメイキングの時
椅子を置かなくて
キレイにしてくれた。

言語

高崎及川大竹
川の言語、文化、民族グループがあり
87の言語が話されています。主な言語グループ
はタガログ(マニラ周辺)セバ(ビサヤ地方)
イロカ(北部ルソン)ビコール(南部ルソン)ワライ
パンガシナン、マラナオなど、マレー系のタガログを基礎
とするピリピリ語(フィリピン公用語)に足っています。

Magandang
hapon Salamat

Aグループ フィリピンのグルメ

機内食

国際線の機内食
には和食と洋食の
2種類がありました
機内食は毎月
メニューが変わる
ようです。また、
和食と洋食の
2種類から好きな方
を選ぶことができます

朝食

ホテルの朝食は
ビュッフェ式でした。
種類が豊富で
ジュースは毎日
変わるためあきずに
食事することが出来ます。

研究報告

第Bグループ

上野さくら・駒澤樹・遠山ひとみ
山崎瑛登・吉岡美月

発表テーマ

私たちが見たフィリピン



Bグループ・吉岡・山崎

若者との交流

NYCにて!

フィリピンの若者たちはとてもフレンドリーで優しく、すぐに仲よくなれました。とても、楽しい時間を過ごしました。

みんなてよさこいをおどった!

お琴に合わせて、日本の歌をみんなて歌いました。

伝統

「ディアカッド」
ココアツを使った竹馬のような遊び。

「パンダダンス」
竹を使った、フィリピンの伝統的なダンス。実際に体験しました。

「キャンドルダンス」
キャンドルを使ったダンス。民族衣装を着ていてきれいだった。

ショッピング

「マーケット・マーケット」
多くのフィリピンの人々が足を止めるモールです。

「Mall of Asia」
アジアの中でも最大級のショッピングモールです。

フィリピンについて

Bグループ・上野・遠山

人口 1億377万5002人

国民性

フィリピンの人達は情熱的で感情的な人が多いです。そして、「フィリピーノ・ホスピタリティー」というおもてなしの心を持っている人が、多く、みんなフレンドリーでした。

人種

フィリピンにはマレー系、インドネシア系、ネグリート系の民族の混血でスペイン統治時代が長かったため、スペインとの混血も多い。そのため、スペイン、メキシコなどのラテン系諸国と似た国民性とともに生活が見られます。

気候

亜熱帯で、年平均27℃というあたたかい国です。6~10月の雨期・11月~5月の乾期に分かれます。

教育

- 幼稚園 1年
- 小中学校 6年
- 高校 4年
- 大学 4年

宗教

アジア唯一のカトリック教国。

全体
キリスト教徒...93%
その内ローマ・カトリック...83%
イスラム教徒...4~5%
仏教...1~2%

観光地について

<サン・アグスチン教会> <タガイ・タイ>

フィリピン最古の教会。標高約700mにある。全て石で造られている。景勝地。1993年に世界遺産登録。タール火山とタール湖で知られる。

<ジプニー工場> <リサル・パーク>

ジプニーを作っている。車を持つ人が増えたため、近年は生産量が低下傾向にある。フィリピンの国民的英雄である、ホセ・リサルルの像がある。

<ラスピニャス教会> <カーサ・マニラ>

竹造りの教会。シャントリアやパイプオルガンも竹でできている。イントラムロスにあり、スペイン統治時代の家を再現した博物館。

旅の思い出



結団式

出発式



事前研修 (全8回)





1日目

MANILA	NH933
BEIJING	ZH3204
HOCHIMINH CITY	NH949
	NH955
	NH931
	UA9715
CHENGDU	NH947
MANILA	NH1076
MANILA	UA9659
MANILA	TG677



2日目





3 日 目



4 日 目





5日目



報告会



平成26年度苫小牧市こども国際交流事業
中学生フィリピン派遣団報告書

平成26年12月発行

総合政策部 政策推進室 市民自治推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

TEL 0144-32-6157 (直通)

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/siminjiti/>